

AMEDデータ利活用プラットフォームの一般受付開始について

2024年4月2日(火)

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
ゲノム・データ基盤事業部

AMEDデータ利活用プラットフォーム：サービス開始時の概要

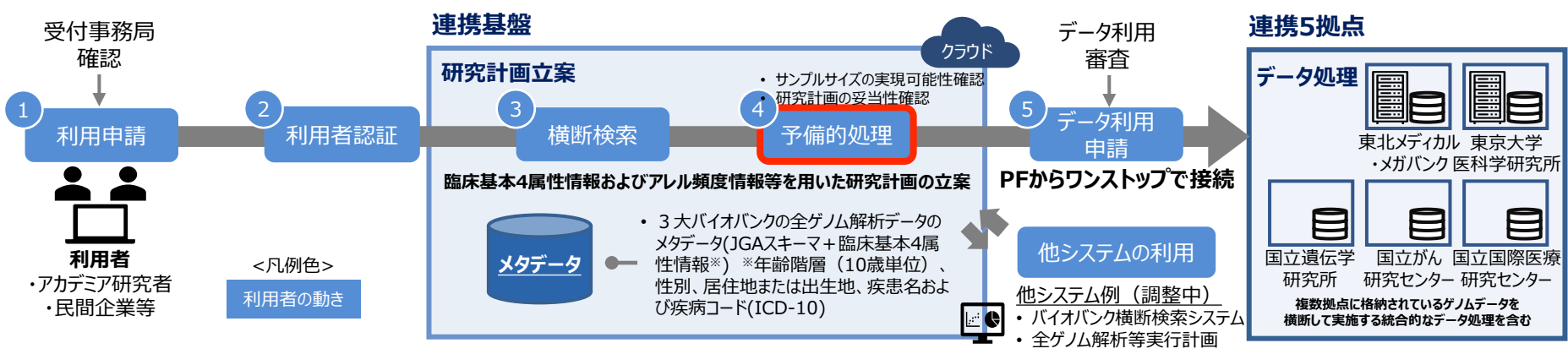


健康・医療研究開発データ統合利活用プラットフォーム事業は、AMED研究から生み出されたデータの利活用促進を可能とする場を目指し、3大バイオバンクの全ゲノム解析データのメタデータの横断検索からデータの処理までワンストップで実行可能なサービスを提供することで、ゲノムデータ利活用を推進する役割を果たす。

- ✓ 各種申請窓口一本化による業務簡素化
- ✓ 他システムとの同一IDによる簡便なログイン

- ✓ 3大バイオバンクの全ゲノム解析データ（約2万件）のメタデータの横断検索による研究計画立案の効率化

- ✓ 連携5拠点におけるシステムへワンストップで接続可能となることによるデータ処理までのスピード効率化



AMEDデータ利活用プラットフォームに関する規則群

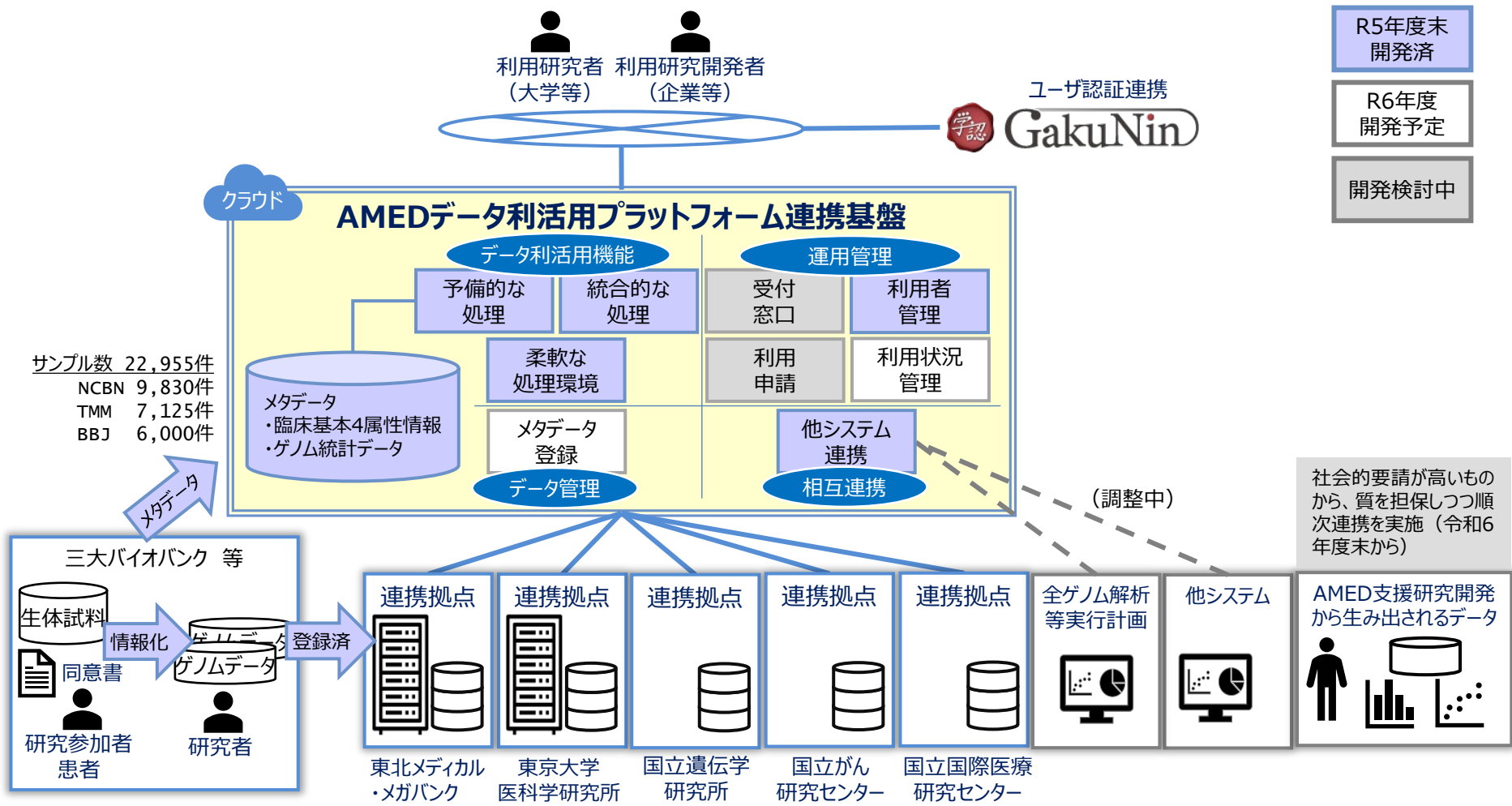
- 有識者会議**
- ✓ PF及びデータ利用に関する規則、システム等、本PFの運営を支える重要な仕組において議論を行う

- 受付事務局**
- ✓ 本PF利用申請、全ゲノム解析データ及びデータ処理ノードの利用申請、各種問い合わせへの対応を行う

- データ利用審査会**
- ✓ データ提供機関のデータ利用に際し、公平・公正・中立な立場でデータ利用審査を実施する

AMEDが実施

AMEDデータ利活用プラットフォーム：システム全体像



R5年度末
開発済

R6年度
開発予定

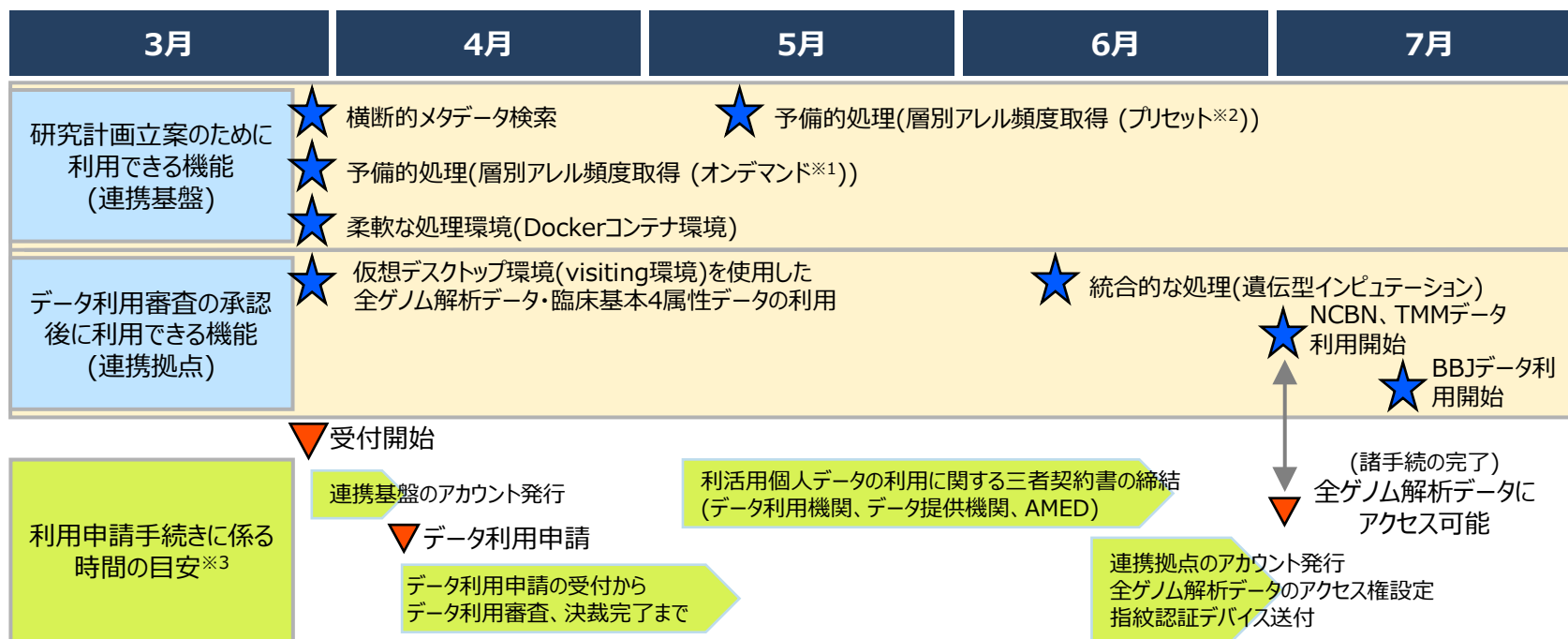
開発検討中

今後の機能リリースタイムライン（予定）



■ AMEDデータ利活用プラットフォームの機能を順次リリース

- 一部機能は一般受付開始後のリリースになるが、利用者はデータ利用審査等の諸手続に2.5か月程度必要とし、機能の利用までには時間を要する。
- バイオバンク・ジャパン(BBJ)のデータ利用は令和6年7月以降を予定。
- 日本多施設共同コホート(J-MICC)、及び大規模認知症コホート等のデータ利用は令和6年度内で調整中。



※1 利用者が臨床基本4属性の各属性の組み合わせで絞り込んだセット(例：60代・男性・関東出身・認知症)に対するアレル頻度※4を都度計算し提供する。
 ※2 あらかじめ臨床基本4属性の属性毎に層別（年代別、性別、出身地別、疾患別）したアレル頻度を計算しておき提供する。
 ※3 3月末に不備のない申請書を受領した場合の所要時間の目安。
 ※4 ある遺伝子変異が特定の集団（例：国際〔東アジア、ヨーロッパ、…〕、国内〔関東、近畿、…〕）において観察される割合。外見的特徴、病気の罹りやすさ、薬の効きやすさ等に違いが出る場合がある。

AMEDデータ利活用プラットフォーム： 目指す方向性についてのポイント（案）



When ◆ 令和5年度末の一般受付開始、令和6年度サービス提供開始、令和7年度以降機能、連携先・データを順次拡大

What

- ◆ 令和6年度まではゲノムデータが中心、令和7年度以降はコースの高いデータから拡充を検討

How

- ◆ バイオバンク横断検索システム、全ゲノム解析等実行計画を始めとした他システムとの連携を想定

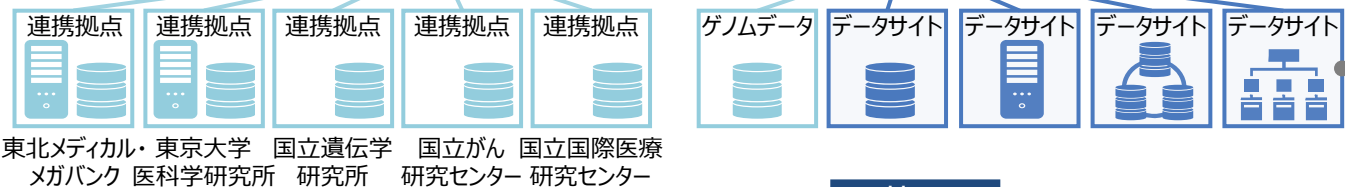
How

- ◆ AMED研究成果データの利活用促進を支えるためのデータガバナンス機能の強化



How

- ◆ コネクタ（API等）などの新たな技術を活用したデータ連携を検討



How

- ◆ 今後拡大していく対象データとの接続については、AMEDの役割や管理体制面を鑑み、分散型での管理方法も手段の一つとして検討